



日本医科大学スキ一部

活動報告書

2002年10月

目次

2001年度総括

5年 梅沢 裕己

2002年度抱負

3年 藤森 啓太

2001年度会計報告

5年 長尾 元嗣

大会成績

入賞者からのコメント

5年 梅沢 裕己

5年 長尾 元嗣

6年間のまとめ

6年 菊池 有史

スキー部をふりかえって

6年 玄 陽平

私が引き継いだもの

6年 豊川 優

自分にとっての競技スキー

3年 太田 智大

なす's Eye

3年 関根 鉄朗

スキー部に入って

2年 佐竹 美彦

スキー部OB住所録

現役部員名簿

現役部員の他己紹介

HOME PAGE 開設のお知らせ

編集後記

総括

2001年度日本医科大学スキー部
主将：梅澤 裕己

2001年度の総括を行いたいと思います。

2001年度の良かった点

- ① 自主的に練習を組み立てることにより、楽しく、効率よく、かつ低コストで練習ができた。
 - ② アルペン競技を集中的に鍛えることにより、アルペン競技において上位を狙うための活路を見出した。
 - ③ 下級生よりも上級生のほうがタイムが良く、練習量と好タイムが比例していることが感じ取れた。
 - ④ チームの突出した誰かがポイントを取るといったわけではなく、皆が皆、それなりの結果を残し、大会としては満足の行く結果であった。
 - ⑤ 今後のチーム運営に参考になると思われる指針を残した。
- 以上の良かった点は今後の参考にさせていただきたい。

反省点

- ① アルペン競技に重きをおいたため、ノルディック競技における成績の低下が著しかった。
- ② 下級生がしっかりと2001年度の方針を理解していたかが疑問点である。
- ③ 新幹部の精神がしっかりと叩き直されていない点が心配である。
- ④ 他大学との合同練習において、事前に連絡しておいた人数が確保できなかった。
- ⑤ キャプテンの優柔不断さもあり、チームが混乱したこともしばしばあった。
- ⑥ 大会運営者の優柔不断さにより、チームが混乱したことがしばしばあった。

以上の反省点を考察してみると、

- ① 今年の幹部に一任することになるが、ノルディックこそ、練習量に比例して結果が出るので、アルペン競技で一応の収穫があったと思われたら、ノルディックに力を入れてみるのも良いと思います。
- ② 今までは4年生が幹部をしてきましたが、今年は現3年生の二人が幹部ということで、大変だとは思いますが、頑張っ部活を盛り上げていきましょう。
- ③ 不審な行動が多い現3年生であるので、少々心配ですが、しっかりと責任感を持っていきましょう。
- ④ こればかりは、学校の問題なので、どうしようもないです。先の見えないカリキュラムに屈せず、がんばりましょう。
- ⑤ 申し訳ない。反面教師にしてください。
- ⑥ キャップ会で、がんがん発言していいと思います。

以上をふまえ、数少ない新入部員を確保し、合宿を効率よく運営し、大会で大いに力を発揮し、楽しい大会にして2002年度部活を盛り上げていくために今後の幹部、部員の頑張りが期待されます。

最後になりましたが、われわれの部活動を支えてくださった高橋部長をはじめ多くのOB・OGの先生方に、この場を借りてお礼申し上げます。また今後ともご指導のほど、よろしく申し上げます。

今年の方針・抱負について

2002年度日本医科大学スキー部

主将：藤森啓太

私は今年2002年度のスキー部の主将を務めている藤森啓太である。今年度のスキー部には4年生が居なく、繰上げ当選で私が主将を務めることになった。3年ということもあっていろいろなことが手探りで、不安ではあったが、同学年の関根と共に相談したり仕事をしたり、今、何とか軌道に乗ったと思う。今年もスキー部を楽しくて、締めるところを締めるようなカッコいい部活にしたいと思う。OBの皆様にこの部誌を通じて今年の方針や抱負を知ってもらおうことで、今年度のスキー部をわかってもらいたいと思う。

まずは、今年の方針について述べる。今年の方針は第一に、ノルディック競技への熱き心を取り戻すということにある。我々日本医科大学スキー部は近年、ノルディックを軽視しすぎる傾向にある。軽視と云うと大げさであるが、「疲れるから大変だ」とか「つらい」などという意見があるのが事実である。では、私がなぜノルディックを熱くやろうとしているのかということになる。それは、ノルディックという競技は努力がそのままポイントに反映される競技だからである。アルペン競技は、その日の天候や自分の体調、運に左右されてしまうところがある。僕は部員全員にポイントを取って欲しいと思う。

スキーは個人競技だから、5年間で自分の満足の行く滑りができればよいという考えもある。しかし、ポイントをとることで日本医科大学に点数が入って、大学同士で切磋琢磨し、競い合っていくようになったら個人競技とはまた、違う緊張感が生まれてくるのではないだろうか。僕は（僕がまだポイントを取っていないので決して偉そうには云えないのだが、）スキーを単なる個人競技で終わらせて欲しくないと思う。もしも、ノルディックでポイントを取れるようになったら、今度は団体競技としてのスキーの楽しさ、アルペンに対するモチベーションの上昇にもつながると思う。これを今年の大きな流れにしていこうと思う。スローガンを立てるならば「団体競技としてのスキー」である。

次に、練習についての方針を述べる。大会でいかに自分のイメージ通りの滑りができるかは、夏にどれだけ自分の滑りにマッチする体をつくれるかにかかってくると思う。だから、筋力トレーニングはしっかりやりたい。筋力トレーニングの大事さというのは後輩に

も伝えるように努力している。また、機械的な筋力トレーニングの繰り返しは飽きを呼んでしまう。飽きてくると、成果は次第に落ちてくると思う。僕はいつも思うのだが、つまらない部活なんて嫌だと思う。だから、練習はできるだけバリエーションのあるものに1ヶ月周期くらいで変えていきたいと思っている。今年度のトレーニングのスローガンは「楽しく筋トレ」である。

次に抱負を述べる。自分自身のスキーのプレイヤーとしての抱負はもちろんポイントである。自分もポイントを取って、ポイント戦に絡んでいきたい。先輩がポイントを取って日医が何位になるか一喜一憂している姿を見て歯がゆく思う。僕も学校の順位に貢献したい。先輩と一緒にさらさら順位を見守りたい。2年間思いつづけてきた。だから、今年こそポイントを取る。

スキー部の主将としての抱負は、部員がスキー部を好きになってくれることである。もう好きならそれで本望であるが、もし、まだちょっとなじんでいないかなと思っている部員がいるなら、精一杯楽しい雰囲気を作ってスキー部を好きになって欲しいと思う。今年度は、先ほども述べたように3年が部長という異例の事態であるが、その分2年3年が幹部であるので来年を見越した逆に余裕のある部活作りがしていけるのではないかなと思う。密にコミュニケーションを取っていい雰囲気を出してゆければ本望である。

今年度の抱負とは少し話がずれてしまうが、近年スキーの人气が下り坂で部員がなかなかつかまらないような状態にある。今年度も、2人入ってくれたが2人とも兼部という状態である。新入生の勧誘をしていてよく聞かれることが「スノーボードはやらないのですか？」という質問である。スノーボードもスキー人気低迷の原因の一つでもある。スキーはこんなに面白いのに何でこんなに部員入らないのだろうと思う。みんなに楽しさを伝えたい。そして、大所帯の部活に成って欲しい。だからこそ、大会で結果を出すとか新歓の時期にどんなアピールをするとか、1プレイヤーとして大会で結果を出すこと以外でも、部活を盛り立てていくためにはいろいろなことを頑張らなくてはいけない。スキー部を大所帯にすることは僕が6年になるまでの夢だ。

今後もスキー部にご指導ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。

2001 年度 会計報告

収入の部		
学友会より部費として	¥510,000	
諸先生方からの御援助	¥360,000	
学祭による収入	¥130,000	
合計	¥1,000,000	
支出の部		
大会分担金	¥160,300	
公式設備費	¥863,842	
部の共用物	¥567,381	
師範代	¥497,295	
OBへの連絡費	¥43,166	
板のチューンナップ代	¥97,230	
合計	¥2,229,214	
総決算	1000000-2229214	= ¥-1,229,214

活動報告書作成の場を借りまして、以上のように2001年度の会計報告をさせていただきます。昨年も先生方に御寄付を頂きまして、部員一同大変感謝しております。先生方のご厚意により充実したクラブ活動を行うことができました。今年度も先生方のお志を無にせぬよう尚一層の精進を致す所でございます。ただ、特定の先生方からのみ御寄付をいただいているというのが現状です。スキー用具、備品等の不足、また合宿での宿泊費や東医体をひかえ報告書の通り部の運営が大変困難な状況にあります。OB会からの御援助をぜひ検討していただきたく存じます。もしよろしければ振込用紙を同封いたしますので以下の口座までお振込みいただければ幸いです。

2001 年度会計 長尾元嗣

みずほ銀行 目白支店
普通口座 8026734
セキネテツロウ

大会成績

2000 年度

・東日本医科学生総合体育大会 スキー競技

男子大回転 長尾 元嗣 19 位

・関東医科学生スキー選手権

男子スーパー大回転 梅沢 裕己 15 位

男子大回転 長尾 元嗣 12 位

2001 年度

・東日本医科学生総合体育大会 スキー競技

男子大回転 長尾 元嗣 29 位

・関東医科学生スキー選手権

男子スーパー大回転 長尾 元嗣 8 位

梅沢 裕己 11 位

男子大回転 玄 陽平 8 位

男子回転 梅沢 裕己 15 位

入賞者のコメント

5年 梅沢 裕己

早いもので、もうスキー部5年目。

一年生のときから「スラロームのほうが好き」

とってきた僕・・・

2年生のときは関東でスラローム13位、というの是一本目。

二本目で、見事に転倒。。惜しい、悔しい。

三年生だった去年なぜかスーパーGで初ポイント（関東15位）

苦手なのに・・・

スラロームは東医体で34位。。。惜しい。悔しい。

関東は・・・と思っていたら、転倒しまして・・・下から何番目？？

ってなもんです。

そして、4年生になりました。

東医体は・・・

今年のすべりは、どうも合ってなかったようで、というよりも、

ぜんぜん技術が吸収できてなくて、消化不良を起こしてまして、

という言い訳を一応用意しまして、

どの競技も順位が下がってました。

関東大会に入り、まだ、自分の滑りに疑問を抱きながら、競技を
迎えたわけです。

スーパーGでは、まあ、そんなに得意じゃないから、とか思っ
ていたら、旗門を危うく間違えそうになってしまいました。

「ちえっつ。。しょーがねーな～～」

「まただめか・・・」

なんてことを思っていたら、11位入賞。

「?????」

関東全体の人数が減ってるってのも大きな要因なのですが・・・

「あっつ、行けるんじゃない!!!」

なんて調子に乗ったりもします。この私は。

そして、GS

「門田こけろ～～～～」

(ちなみに僕の前出走者は門田さん(慈恵当時5年))

などと黒魔術をかけていたら、見事に跳ね返されまして、

コース途中で板が外れてDQ

この日、長尾選手と玄選手と僕とで20ポイントくらいとるつもり
でしたが・・・

長尾選手も転倒。。何とか玄選手が8位に入ってくれたので、救
われました。

ちなみに長尾選手も黒魔術を跳ね返された模様でした。

そして迎えたスラローム。

一本目。大事に行き過ぎて、18位←アホです。

なんでこういう大事なときに弱気なんだろう。

自己嫌悪も入りました。何度アンディフグと一緒に精神修行しと
けば良かったと思ったことでしょう。

しかし、過ぎてしまったことはしょうがありません。

「転倒覚悟で滑って、もし転んだらそれで良い」

なんて、下手は下手なりに自分に言い聞かせたのです。

そして2本目。

いつも以上の積極的な滑りができ、途中バランスを崩しながらも、
何とかゴール。

15位ぎりぎりに滑り込み、何とかポイント。

スラロームでポイントという自分なりの悲願を達成しました。

本当は東医体でポイントすることが目標だったのだけれど、まあ、
仕方がない。

今後、がんばります。

ってこんな青春感動ドラマで良いのか??

入賞者のコメント

5年 長尾 元嗣

「大会で入賞するためのポイントは？」と藤森に聞かれたら、自分は「肝（キモ）の強さだ」と答える。ことに大きな大会で、自分の賭けている種目であればあるほど、「自分をだます」必要に迫られる。「自分はこのなかでトップの実力がある」、「このなかで一番練習してきたのは自分である」と自分に思いこませ、周囲にも「俺は相当やったぜ！」とホラを吹いてその助けとする。嘘だと思ったら一度やってみるとよい。スタート前に足がふるえるなら、大地が震えていると思いきみ、他のレーサーへのハンデだとうそぶいて見せるくらいならなおさら良い。スケールがでかければでかいほど自分の気持ちは楽になる。

次に関根に「大会で勝つ秘訣は？」と聞かれたら、「運を身方につけることだ」と答える。僕は自分が賭けているレースには必ず、リフト券ホルダーの中にお守りを忍ばせておく。事実3年生の時の東医体GSでは、根津神社のお守りを仕込んだ結果、自分の出走順のときにそれまで立ちこめていた霧が晴れ、向かい風は止んでシードをゲットした。去年は善光寺のお守りを仕込んだ結果、失敗しつつも29位にすべり込みシードを守った。これを神様、仏様の御加護といわずしてなんとするだろうか？信ずるものは救われる。

さらに太田に「試合の前日は何をしますか？」と聞かれたら、「4回ワックスをかけて、その上にセーラを塗って寝なさい」と答える。さすがに4回もワックスをかければ、滑らない板でも滑るようになる。自分の相棒（＝板）を最高の状態にしておけば、絶対に板で後悔することはなく、あとは全て自分の技術に委ねることができる。さらにレース当日、自分の板の滑走面の輝きを日光にかざして、周囲の大学のレーサーにみせつけてハッターをかますことにも役立つ。そして4回もワックスをかければ疲れ果て、どんなに緊張していても前夜はぐっすり眠ることができる。

最後に佐竹に「試合に勝ったら何をしますか？」と聞かれたら、「成績は出せたのだからあとはなるべく分厚い会計報告書を作りなさい」と答える。来年の大会に備え、まず考えるべきは学友会からいかにして部費を引き出すかである。来シーズンの部活全

体のQOLがこれによって決まるといっても過言ではない。大会明けに来るべき学友会との部費争奪戦にそなえ、すさまじい額面の収支報告（いたるところからかき集めた領収証の山）と大会での成績を武器に、常に強硬姿勢で交渉に臨む。時に泣き落としも使いながら、今年はどうとう20万円アップの50万円の大会にのし上げた。これは今シーズンの大金星であったと自負している。

最後はなんだか俗っぽい話題になってしまったが、全てに共通して言えることは「常に前向きに、あらゆるもの全てを身方につけて突き進め」ということである。心の中で「無理だ」と思ったときすでに自分は負けている。どんなに速いレーサーも、どんなに屈強なノラーも、所詮自分と同じ人間だと思えば何も恐れることはない。今まで彼らがしてきた以上の努力を短期間に凝縮し、集中して取り組めば、必ずその領域に近づくことができる。その初めの一步を踏み出すことこそ、大会で良い成績を残す秘訣ではないだろうか。

6年間のまとめ

6年 菊池 有史

僕は中学・高校時代と水泳やテニスをやってきており、大学に入ってもぜひ運動部に入ろうと思っていた。スキーは友達と何回か行った程度の腕前であった。正直なところスキー部に入ろうなんて全く考えていなく、スキーは遊びで友達と行けばいいぐらいに考えていた。大学に入り新歓に連れまわされ、気づいたらスキー部に入部していた。このときから、遊びだけではなく、競技スポーツであることを意識した僕のスキーが始まった。入部当時の思い出として非常によく残っているのが「駒忠」である。ちなみに「駒忠」とは何かを説明しておく、東京体育館でのアップの4キロに始まり、400mダッシュ、反復横とびなどの非常に厳しい陸トレのあとに毎回のように行った飲み屋のことである。特にお酒の弱い僕にとっては、恐怖の館以外のなにものでもなかった。後輩たちに話を聞くと今は行かないそうで、スキー部の伝統のひとつが消えてしまったようで何かさびしい気も覚える。

スキーに関しては、僕は滑っているときの形のきれいさを追求した。競技スキーである以上、もちろん競われるのはタイムである。しかし僕はきれいな形で滑り早いタイムを出したかった。今となってはそれなりの成果を得られたと思っている。

最後に僕も5年余り部活をやってきたわけであるが、楽しいことが絶対にあったから続けてこられた。スキーというのはテレビを見ていてもやっぱり個人のスポーツであることには変わりないと思います。ただ僕たちは日本医科大学スキー部というのに所属しているわけで、その中には選手になれなくて応援してくれる人たちが共に来てくれて、そういう人たちと行動を共にしているわけである。結局ポイントは取れなかったわけであるが、その中でスキーを滑れるのもOBの先生方のご協力、日本医大にいるからだということを忘れてはいけなかったと思います。そうすれば、何故か落ち着いてプレーすることができるし、実力以上のものが時に出せたりして、そういうものが結果的に個人だったり、団体の成績に繋がると思うからです。これからも後輩たちにも感謝の気持ちをまず忘れずにこれからの大会に臨んでもらいたいと思う。

スキー部を振り返って

6年 玄 陽平

今となってはもはやはっきりと覚えていないのだが、「なんとなく」だとか「のり」だとか、そんな理由で私はスキー部に出会った。1年、2年、とそれなりに部活をこなして3年次には金銭的な理由で休部をしていた時期もあった。どちらかといえば部活だからというような理由で取り組んでいた。実際自分が本当にスキーを好きかどうかわからなくなっていた。

しかし、1年間スキーと離れて、やはりスキーを好きな自分に気がついた。速くなりたい、大会で自分に納得が行く滑りがしたい。そう思った。私は自分がいいと思うことをひたすら追求することに徹した。筋力トレーニングは自分に基礎体力があると思ったからそこまで力をいれずに、もっと、一人で他のグループの合宿に参加したり、とにかく雪の上に多くいるように心がけた。自分が「こうすれば速くなる」そう思う滑りをひたすら追求したのだ。

そして、自分にとっての最後の大会、私は人生初のポイントを獲得することができた。自分にとって満足のいく結果である。なんとなく、手なりでスキー部にいるのではない。勝ちたくて、速くなりたくて、そして勝ち得たポイントである。「努力して、自分の満足の行く結果を出せた」これはスキー以外のいろいろなことへの自身にもつながると思う。

後輩たちに「おめでとうございます」と激励の言葉をもらったとき、部活全体で喜びを分かち合うというすばらしさを覚えた。それまでの私は、「部活で頑張る」というよりは「わが道を行く」という気持ちであったが、自分のポイントが学校のポイントになったという連帯感、喜びはまた格別のものだった。

スキー部5年間。いろいろなことがあったが、スキー部に入ってよかったと思う。

そして、後輩の諸君達に言いたい。

「絶対ポイントしろよ！」

私が引き継いだもの

6年 豊川 優

今回、部誌(後で聞いた所によると「活動報告書」的なものらしい)が刊行されると言う事になって、6年生である私にも原稿の依頼が来る事となった。「分量は？」と聞くと「A4で1枚から2枚でお願いします」との話。試験で忙しい中でも書けるだろうと思って引き受けてみたものの、6年間の色々思った事をそんな短い中にまとめるのが逆に大変な訳で、文章力の無い私は四苦八苦してしまった。そんな訳でスキー部と言う大きな流れの中で自分が引き継いだ物を考えてみた。

一年の時を思い返すと、一番印象的な出来事として勧誘がある。もちろん、相当前の話であるし、細かい経緯に関してはうろ覚えだが、当時5年生、現在はドクターである京先生、幸田先生、小林先生の三人の印象が強烈だったのは覚えている。「飲みの激しさ、面白さ」みたいな事はもちろん、三人が同学年でびたっと波長が合った感じと言うか、部活をやっていて楽しそうな感じと言うか、とにかく巧く表現できないが、「付いて行けば楽しそうだな」と言った感じを受けたのを覚えている。これは、私だけでなく、菊池や玄達もそういった印象を受けたと言っている。この経験が部活のあり方とか、部活の楽しみ方の原点になっている。翌年の勧誘の時、現在5年生である梅沢や長尾達を勧誘した訳だが、こういった経験があるから勧誘の言葉も出てくるし、それが多少なりとも伝わったからこそ、彼らが高校まで他の部活をやっていたにも関わらず、全く無縁のスキー部に入ってくれたのではないかと思う。

現在、学校側のカリキュラム変更などの影響もあり、現役の人数が少なくなっていて、部活運営自体が難しくなっている。もちろん、これからまだ見ぬ新入生をたくさん勧誘して行く訳だが、正直、スキー人気自体が下火な事もあり、勧誘が難しくなっている事は否めない。そこで、部活の楽しさ、我々が感じた「ついていけば楽しそうだな」との感じがスキー部自体から感じられるかどうかは重要だと思う。我々が感じた部活の楽しさを十分に下に引き継いでけたかどうかは分からないが、そういった部活の楽しみ方を、代を経て引き継いでいってくれればと願っている。

自分にとっての競技スキー

3年 太田 智大

僕は、大学に入学した当初からスキー部に入部するつもりでした。動機は至ってシンプルで、ゲレンデでうまく滑れるようになりたかったからです。そんなわけで、初日の部活勧誘の夕食会は、スキー部に行きました。しかし少し勘違いがあって、僕としては普通のただ単にスキーをする部活だと思っていたのが、じつは競技スキーをする部活だった、ということがその夕食会でわかりました。初めはとても戸惑いました。そんなものやったことなんてないし、果たして自分にやっっていけるものなのかどうか不安だったからです。でも、他に特にやりたい部活もなかったですし、先輩方も個性豊かで楽しそうな雰囲気だったので、その日のうちに先輩の名前を全員覚えて入部宣言をしました。

その後、ザウスに連れて行ってもらい、先輩方の滑りを見て、「競技スキーやっていたら、ゲレンデで滑ったとき注目されるような滑りができるようになるよ」と以前先輩の言っていた言葉に納得しました。ちょうどそのときザウスでは、ポールがセットされていたので、先輩方に言われるままに、滑ってみました。予想通り、スピードを落としてはなんとかコースアウトを免れ、そうこうしてるうちに次のポールが迫ってきて、の繰り返しでした。全然うまくいかなかったですが、なんとなく競技スキーって楽しそうだな、と感じました。

冬合宿では、基礎練習と共にポール練習もしたのですが、そこで競技スキーの楽しさを実感しました。何が楽しいかって言ったら、人によって違うかもしれませんが、僕としては、なんといってもその爽快感だと思います。自分のほかには誰もいないコースを自分に出来る限り速く滑りぬける、その爽快感は他では体験できないのではないのでしょうか。確かに、うまく滑れなくて悩んだり嫌になったりもしますが、それ以上に楽しいスポーツだと僕は思います。

なす's Eye

3年 関根 鉄朗

スキー部に入ってから3年間が経って、部活動の難しさとそこから得られる事の大きさを改めて思い知ります。個人的な事ですが、この3年間を振り返りたいと思います。

まず、右も左も分からない一年生、この時期は部活動の事はもちろんスキーという競技への取り組み方自体、見通しが立たず正直不安がありました。先輩、コーチが教えてくれた事、自分の思いこみでがむしゃらに突っ切った一年であるかのように思います。スキーに対する姿勢みたいなモノはこの時期に形作られたような気がします。

そして、二年生になり、幸か不幸か主務との大役を突然引き受ける事になりました。息もつかぬ内に新歓、追いコンの仕事、またコーチとの日程の交渉、宿との日程交渉等々、去年もっと上の仕事をよく見ていれば楽だったなあと思う事しきりでした。何度もミスをして、その度に当時幹部だった現五年生に迷惑をかけたりました。これらの経験がどのように消化されているか、それはまだ正直、自分では分からない事です。ただ、例えば、兼部している農医研の活動において、ぼっと突然「これスキー部と同じだなあ」と思ったりして、少なくとも何かしらの形で息づいているのは確かなようです。

そんな事で、三年生。まだ振り返る程の年月も経ってないと言うのが正しい所でしょう。しかし、自分が最高学年だとのプレッシャーは、なってみないと分からないものがあります。幸いにも藤森と言う責任感の強い男が同学年にいる事もあって、その点では恵まれていたのではないかと思います。

何か、スキー以外の話ばかりになってしまいましたので最後に競技の事を一つ。主務と言う責任ある立場からヒラ部員に戻れまして、自分の事に集中出来る時間は増えた気がします。残念ながら部員は減少傾向にありますが、個人競技の強みは自分の努力でそれらのマイナス要素をある程度カバー出来る事。良い意味で好き勝手やらせてもらおうかと思っています。目指すはポイント!!です。

スキー部に入って

2年 佐竹 美彦

私がスキー部に入部してから早一年。一年がたつのは早いもので、気がついたら後輩の入ってくる季節になりました。この一年間にいろいろなことがありました。個人的なことですが、この一年間について書いてみたいと思います。

大学に入ったらまた野球をやろうと思って入学してきた矢先の新歓。先輩方のパワフルさに圧倒されていた気がします。そして、初日にスキー部にお世話になったのが縁で気づいたらスキー部に入部していました。スキー自体あまり滑ったことのなかった私にとって、初めはスキーに対して不安でいっぱいでした。特に、競技スキーというと一般の人にはなじみがありません。しかし、先輩方やコーチの指導によりその不安も次第に払拭されてきました。実際やってみると、競技スキーは非常に面白いもので、最近では爽快感すら感じるようになってきました。ただ昨年度は技術的にまだまだ未熟だったため、先輩・コーチの言うこともよくわからなかったのが残念です。このように、去年は何もわからず、がむしゃらに過ごした一年だった気がします。

今年は二年になり、四年生がいないため幹部の手伝いをする事になりました。幹部である三年生の足だけは引っ張らないように精一杯がんばっていきたいです。スキーに関しては、昨年度得たことをさらに伸ばせるように筋力アップし、ザウスがなくなる前にできるだけ滑り込めればと思っています。また、昨年度は大会直前に怪我をし、大会に出られないという非常に悔しい思いをしたので、今年は去年の借りを返すつもりで精一杯がんばっていくつもりです。今年こそポイントを取るつもりでできる限り雪の上に立っていようと思っています。

スキーを愛して止まない男達

このページは藤森(三年、現主将)による現役部員の他己紹介のコーナーです。本文中の管理人とは藤森のことをさします。

6年 菊池 有史

愛称 ありさん、ありぞう

マテリアル GS ATOMIC β -race 9.20

SL SALOMON superaxe equipe3V

ブーツ LANGE Z3(Demo. model)

特徴 スキー部随一の愛妻家。さらに、異常に面倒見がよい。まだスキーを何も知らない管理人(当時19歳)にザウスで手取り足取り教えていただいた。感謝。主食はプリン、一日に20個食べたことがあるとか無いとか。本人の話によると最近の主食はコーヒーだとか。我が雀道に立ちはだかる四天王の1人という一面もある。車に関する事ならお任せあれ。改造その他何かと詳しい。赤いフォレスターを乗り回す。管理人とはメタルギアソリッドについて熱く語り合った中でもある。皆さんのご寄付で菊地さんにPS2を買ってあげよう!

6年 玄 陽平

愛称 げんさん

マテリアル HEAD

ブーツ LANGE Z3

特徴 じじいの玄さん、無口なんだかクールなんだかよく分からないが、スキーと煙草に対する思いは人一倍。関西弁が似合う、というか関西人。昨年の合宿中、禁煙宣言をした管理人に煙草のすばらしさをといたという逸話まである。合宿には6年生が一番よく来ている。、、、、やはりこの人熱い人なんだと思う。。よーてんとなかよし???

6年 田蒔 基行

愛称 たまきさん、たまさん

マテリアル

ブーツ

特徴 ジゴロのたまさん。一昨年入部し、もう今年引退するという恐るべき台風やろう。いつも、色んなバイトをしている。「儲かるらしい」がその内容は不明である。一昨年の合宿中、管理人と同時に怪我をし病院へ強制送還。放射線まであてられ、結果は二人とも**黒**。原因はやはり怪我前日に行ったオトタケ芸にあるのか、、、、。五体不満足の呪い、、、恐るべし。

6年 豊川 優

愛称 まさるさん、まぢやる、くまさん

マテリアル ROSSINOL FISHER

ブーツ れぐざむ

特徴 お酒が大好きで自称酒樽。一体、過去何リットルのアルコールが彼の胃に吸い込まれていったことか、、、、。駒忠での伝説は数知れず、、、、。「おたけび」伝説を後輩へと語り継ぐことのできる数少ない生き残りの一人。元キャップ。管理人をネットゲーム(ウルティマオンライン)の世界に引きずり込もうと失敗。

5年 梅沢 裕己(前主将)

愛称 うめさん、うめ、うめちゃん等々

マテリアル GS atomic β carve 9.20
SL Nordica

ブーツ technical

特徴 誠実で真面目で非の打ち所無し(本人談)。下級生からは「**ジャイアン**」「梅ゴリラ」と恐れられている。中枢学を得意分野とし、ピアノを自在に操る(たかそ〜〜なレストランで演奏していたほどである)。本人の語る性格は強ち嘘でもないが、敢えて非を打つとすれば「結構てきとー」「不機嫌なとき怖すぎる」ですかね。しかし、一番人望が厚いのは前キャップでもあるこの人だろう。

5年 長尾 元嗣(会計元締め)

愛称 ながおさん、もとさん

マテリアル GS DYNASTAR SPEEDCARVE 178cm
SL SALOMON EQUIPE10 3V 168cm

ブーツ LANGE L10 RacingZI

特徴 スキー部の富豪、兼道産子。実力もさることながら合宿中に飲むキヨーレオピン(滋養強壯剤)の量も半端ではない。きっと生まれながらの商人なのだろう、学際で儲かったときの**顔**、部員から合宿費を集めているときの**顔**、、、、、、。最近パソコンの自作を目論んでおり、元部員村岡(2年)と「スキー部オタク部門」を設立。もはや誰も止められない。得意技は人がネタに出来ないようなこわ〜〜いところをいとも簡単にネタにしてしまうところ。全てが「いいひとすぎるから」という理由でうやむやになっているのかもしれない。実は今回の報告書作成の律速段階だったりもする。

3. 5年 太田 智大

愛称 おおたさん、ともくん

マテリアル HEAD syber

ブーツ LANGE

特徴 一昨年度、ネットゲームにはまったせいか、もう1回2年生をやる羽目になってしまった、開成のブラックホースである。持ち前のいい人さ加減と、頭の良さのおかげで皆、「なんで留年しちゃったんだろ」と首をかしげている。来年はスキー部社長として部を盛り立ててくれるであろう。現在休部中であるが、太田さん！「早く戻ってきてください！」

3年 関根 鉄朗(主務)

愛称 ねっち、せきねっち

マテリアル DYNASTAR

ブーツ

特徴 AVを愛する天災主務。彼の暗算能力は pentium4並。合理的に生きよう合理的に生きようをモットーに(?)最近開花した**ナス顔のオオサワタカオ**。彼がインディーズ AV2本(1万円也)のために980円で髪を切らざるを得なかったことに対し「何で2本なの？」と聞いたところ「だってどっちもヨさそうだったんだもん」、、、もはや閉口である。彼とは仲が良過ぎてこのような場では語り尽くせないほどの逸話を持つ。

3年 藤森 啓太(主将)

愛称 K太、ぷし森

マテリアル SALOMON equipe3V

ブーツ HEAD

特徴 現キャップ。だらしなさすぎ。実習サボるな。引きずりすぎ、「国内最弱雀士、宴会ゲーム最弱、シーフLV1、特技無し」

2年 佐竹 美彦

愛称 よっしー、さちく

マテリアル

ブーツ LANGE Z3

特徴 時々妙に高い声が出る。。原因不明。まだ我々を信用しきっていないようでいろいろな情報が不正確である。彼女がいる、ということまではつかんでいるのだが、どこの、どのような人なのか趣味など諸々謎のベールに包まれている。早く見も心も全裸になって欲しいものである。

<注>スキー部は信仰宗教の類 ではありません。

最近かわいいきゃらで売り出し中。。。

HOMEPAGE 開設のお知らせ

現在、日本医科大学スキー部ではスキー部内外でのコミュニケーション・情報媒体のツールとしてホームページを立ち上げています。お忙しい合間をみてアクセスしていただき交流に役立てればと思います。また、今後は先生方に参加していただいた部活行事における写真や練習風景なども掲載していく予定です。是非ご覧ください。 (3年 藤森啓太)

アドレスは

<http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Circle/3252/>

編集後記 ー近況報告も含めー

早秋の候、先生方においてはますますご健勝の段、お喜び申し上げます。先生方はいかがお過ごしでしょうか。

今年度のスキー部は現役部員9人中、大会に出られるのが2年・3年の4人と少なく、これからどうなる事かと不安の中でのスタートとなりました。

昨年度の試合の成績のほうもご存知の方も多いとは思いますが、東医体においては長尾が男子大回転において入賞、関東大会においては玄が男子大回転、梅沢が男子スーパー大回転、男子回転、長尾が男子スーパー大回転において入賞と健闘をみせました。これからは先輩方の伝統を崩さぬように頑張っていきたいと思っております。

このような結果が得られたのも、OB・OGの先生方のご支援のおかげです。6月に行われた新歓コンパにも多くの先生方にいらっしやっただき楽しい時間を過ごさせていただきました。まだ学生の私たちには先生方とお話させていただく事で勉強になることが多く、先生方との交流を楽しみにしております。お忙しいとは思いますがこれからも新歓コンパや追い出しコンパはもちろんOB戦などお誘いいたしますのでぜひいらっしやってください。心よりお持ち申し上げます。

昨年度は健闘いたしましたが、人数も足りなく厳しい状況には変わりはありません。何かと物入りになることもあり、先生方のご指導、ご支援のほどよろしく申し上げます。

今後とも何かと至らぬ点も多くご迷惑をおかけすることもあるとは思いますが、お気づきの点がございましたらご指摘ください。よろしく申し上げます。最後になりましたが、発行が大変遅くなりましたことをこの場を借りてお詫び申し上げます。

2年 佐竹 美彦